

ロジスティクス環境会議  
第12回共通基盤整備委員会

2005年7月14日(木)16:00~17:30  
浜松町東京會館「ゴールドルーム」

次 第

1. 開 会
2. 議 事
  - 1) 用語解説集について
  - 2) 環境報告書について
  - 3) 文献・報告書などの情報整備について
  - 4) その他
3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1-1 : 用語解説集 WEB ページ①
- 資料1-2 : 用語解説集 WEB ページ②
- 資料1-3 : 用語解説集 公開イメージ (案)
- 資料2 : 環境報告書について
- 資料3-1 : 文献リスト
- 資料3-2 : 雑誌・ジャーナル記事リスト
- 参考資料1 : 第1回グリーンロジスティクス講習会 プログラム
- 参考資料2 : 環境関連法規 解説集
- 参考資料3 : 第11回共通基盤整備委員会 議事録
- 参考資料4 : 第7回研究会 参加者の感想

以 上

さ行

[自動車リサイクル法](#)

[食品リサイクル法](#)

[...](#)

あいうえお順、ABC順にINDEXが並ぶ

クリック

[自動車リサイクル法](#)

用語解説: **2-3行の基本的な定義**

廃車廃棄物の低減のため、自動車メーカーがフロン類、エアバッグ、シュレッダーダストの3品目をリサイクルし、その費用を自動車所有者が支払うという法律。2005年1月から施行。 [もっと詳しく](#)

クリック

詳細解説: **補足となる解説、とくに環境と物流との接点について詳述**

製品としての寿命を終えた自動車は、再使用可能な部品や有害物質を含むバッテリーやエアコン等を外した後、解体処理されて材質ごとリサイクル、または最終処分される。1997年には通商産業省が「使用済み自動車リサイクル・イニシアティブ」を策定したが、業界の自主的取り組みのため実効性に疑問の声があり、廃車の不法投棄も跡を絶たない。そこで通産省は「自動車リサイクル法」制定の準備を進めている。法制化にあたっては、[拡大生産者責任\(EPR\)の明記](#)や、自動車解体業の実態把握がポイントとされている。

クリック

[拡大生産者責任\(EPR\)](#) の頁へリンク

文献データ<1995年以降> (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル／著者・編者／出版社・発行元／発行年月
津久井先生推薦図書	1 書籍	エネルギーを掴む/本間琢也・梶川武信・谷辰夫/講談社ブルーバックス/1977
	2 書籍	人間生活とエネルギー/押田勇男/岩波新書/1984
	3 書籍	縮小文明の展望/月尾嘉男/東京大学出版会/2003
	4 書籍	フードマイレージの試算について/農林水産政策研究レビュー/2001.12
	5 書籍	環境保護運動はどこが間違っているか?/植田敦/宝島社/1999
	6 書籍	「リサイクル」はしてはいけない 環境にやさしい生活をするために/武田邦彦/青春出版社/2000
	7 報告	エコドライブ推進マニュアル/全日本トラック協会/2001
	8 書籍	LCA実務入門/LCA実務入門編集委員会/産業環境管理協会/1998
環境and物流	1 書籍	シティロジスティクス / 谷口栄一,根本敏則. -- 森北出版, 2001.1
	2 書籍	現代の新都市物流 / 谷口栄一[他]. -- 森北出版, 2005.3
	3 書籍	物流効率化を促進する環境調和型ロジスティクス / 長谷川勇,齊藤伸二. -- 中央経済社, 2005.2
	4 報告	ITSを活用した効率的かつ環境に優しい都市物流システムに関する研究 / 谷口,栄一,京都大学. -- 2001-2002
	5 報告	グローバル生産環境下における国際生産・物流シミュレータの開発 / 平川保博,東京理科大学. -- [平川保博], 2001-
	6 報告	沿海地方物流環境ガイドブック / 環日本海経済研究所. -- 新潟県商工労働部商業振興課, 1995.3
	7 報告	岡山県物流ビジョン. -- 岡山県商工労働部, 1998.12
	8 報告	環境に配慮した納品物流システム事例調査研究報告書. -- 流通システム開発センター, 2003.3
	9 報告	環境に配慮した物流のすすめ. -- 東京都環境保全局, 1997.3
	10 報告	環境を考慮した都市内物流システムの合理化に関する研究 / 谷口,栄一,京都大学. -- 1998-1999
	11 報告	環境調和型物流システム標準化に関する調査報告書. 2000年度(第2期). -- 日本ロジスティクスシステム協会, 2001.1
	12 報告	環境負荷の少ない物流システム構築のための条件 / 根本,敏則,一橋大学. -- 1998-1999
	13 報告	研究報告会. 第3回. -- 道路経済研究所, 2004.1. -- (道経研シリーズ ; A-110)
	14 報告	効率的で環境にやさしい物流システム. -- [土木学会], [2002]. -- (土木計画学研究委員会ワンデイセミナーシリーズ ;
	15 報告	食品流通における環境保全型物流システムの導入と展開に関する研究 / 尾崎,亨,酪農学園大学. -- 1999-2002
	16 報告	食品流通の構造変動とフードシステム / 小山周三,梅沢昌太郎. -- 農林統計協会, 2004.10. -- (フードシステム学全集 ; 第3巻)
	17 報告	物流・沿道環境・立体道路 / 高田邦道. -- 地域科学研究会, 1997.1. -- (<地域科学>まちづくり資料シリーズ ; 25)
	18 報告	循環型社会の円滑な物流確保に資する交通体系整備方策調査報告書. -- 経済産業省商務情報政策局, 2002.3
環境andロジスティクス	19 書籍	コミュニティ・ビジネスモデルの診断. -- 同友館, 2004.10. -- (日本経営診断学会論集 ; 4)
	20 書籍	ロジスティクスと環境 / 唐澤豊. -- 成山堂書店, 2001.8
	21 報告	21世紀の展望 / 国土館大学政経学会. -- 国土館大学政経学会, 2001.7
	22 報告	食品流通の構造変動とフードシステム / 小山周三,梅沢昌太郎. -- 農林統計協会, 2004.10. -- (フードシステム学全集 ; 第3巻)
	23 報告	ロジスティクスの歴史的変化と環境負荷分析に基づくモーダルシフトの可能性について / 苦瀬,博仁,東京商船大学. -- 1999-2001

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード		分類	タイトル／著者・編者／出版社・発行元／発行年月
環境and運輸	24	書籍	交通と文化の史的融合 / 三村真人. -- 八千代出版, 2002.12
	25	書籍	日本改造. -- 官公庁図書出版協会, 2004.6
	26	書籍	日本の中小企業研究. 第1巻 / 中小企業総合研究機構. -- 同友館, 2003.3. -- (中総研叢書 ; 2)
	27	報告	運輸・交通と環境. 2003年版 / 国土交通省総合政策局環境・海洋課. -- 交通エコロジー・モビリティ財団, 2003.6
	28	報告	環境トランスポート・フォーラム報告書. -- 交通エコロジー・モビリティ財団, 1998.3
	29	報告	交通運輸に帰因する大都市環境の診断と対策のためのエキスパートシステム / 中村, 英夫, 武蔵工業大学. -- 1998-
	30	報告	交通需要の地域特性に適合した運輸部門の環境効率向上策とその普及促進策に関する研究 / 国立環境研究所. -- 環境省地球環境局研究調査室, [2003]
環境and経営 (但し、ISO関連を除く)	31	書籍	環境問題の経営学(叢書現代経営学) / 高橋由明 / 鈴木幸毅 / ミネルヴァ書房 2005/05
	32	書籍	経営戦略と課業環境 / 光沢滋朗 / 中央経済社 2005/05
	33	書籍	企業経営の社会性研究 社会貢献・地球環境・高齢化への対応(第2版) / 丹下博文 / 中央経済社 2005/04
	34	書籍	進化する環境経営 / 所伸之 / 税務経理協会 2005/03 出版
	35	書籍	21世紀の戦略経営と環境力についての調査研究(生産性研究レポート)第2分冊 / 社会経済生産性本部 / 社会経済生産性本部 2004/10 出版
	36	書籍	持続可能社会構築のフロンティア環境経営と企業の社会的責任(CSR) 天野明弘 / 大江瑞絵 / 関西学院大学出版会 2004/10
	37	書籍	検証! 日本の環境経営わが国の環境経営・環境ビジネスに対する現状認識と問題 / 経済産業省 / ケイブン出版
	38	書籍	新たな規制をビジネスチャンスに変える環境経営戦略 / 市川芳明 / 中央法規出版 2004/07
	39	書籍	エコステージ環境経営評価・支援システム / エコステージ協会 / 吉沢正 / 日科技連出版社 2004/06
	40	書籍	環境監査これからの経営リスクマネジメント 環境編 / 日本監査役協会 / 日本監査役協会 2004/01
	41	書籍	グリーンファクトリー環境保全で勝てる経営 / 木全晃 / 日本経済新聞社 2004/03
	42	書籍	経営に活かす環境戦略の進め方環境経営からCSRに向けて / 矢野昌彦 / オーム社 2004/01
	43	書籍	中小企業の新しい「環境経営」入門 / 岡崎亘博 / 山中芳夫 / チクマ秀版社 2003/12
	44	書籍	サービス論から環境経営論へ生命の再生産の視点から / 武藤幸裕(1955-) / 丸善仙台出版サービスセンター
	45	書籍	経営診断の社会性を考える(日本経営診断学会論集) 資源・環境を意識して / 日本経営診断学会 / 同友館
	46	書籍	環境問題と経営診断 / 岸川善光 / 合力栄 / 同友館 2003/10
	47	書籍	環境マネジメントシステムと環境監査環境経営学 / 鈴木幸毅 / 鈴木幸毅 / 税務経理協会 2003/10
	48	書籍	環境経営戦略事典 / 産業調査会事典出版センター 2003/05
	49	書籍	図解「環境経営」が会社の将来を決める! 2時間でわかる / 唐住尚司 / 中経出版 2003/09
	50	書籍	環境立国宣言環境と両立した企業経営と環境ビジネスのあり方 / 経済産業省環境政策課 / ケイブン出版 2003/08
	51	書籍	環境経営の教科書メカニズムチャートでわかる! / 渡辺パコ / かんき出版 2003/08
	52	書籍	現代経営と経営学史の挑戦(経営学史学会年報) グローバル化・地球環境・組織と個人 / 経営学史学会 / 文真堂
	53	書籍	環境問題と経営学(経営学のフロンティア) / 貫隆夫 / 奥林康司 / 中央経済社 2003/05
54	書籍	環境経営なるほどQ&A環境先進企業へのヒント / 中央青山監査法人 / 中央青山PwCサステナビリティ研究所 / 中央経済社 2003/05	
55	書籍	環境経営への挑戦Eco-ecoマネジメントのすすめ方 / 高遠秋良 / 日本工業新聞社 2003/04	

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル／著者・編者／出版社・発行元／発行年月
	56 書籍	21世紀環境経営とコミュニケーション／遠藤堅治／電通 2002/10
	57 書籍	循環型社会の企業経営(環境経営学)(改訂版)／鈴木幸毅／税務経理協会 2002/11
	58 書籍	環境経営論の構築(朝日大学産業情報研究所叢書)／長岡正／成文堂 2002/10
	59 書籍	環境保全と企業経営(「環境経済・政策学会」年報)／環境経済政策学会／東洋経済新報社 2002/10
	60 書籍	現代経営戦略論環境と共生から見直す／足立辰雄／八千代出版 2002/05
	61 書籍	環境経営入門サステナブルマネジメントを目指して／環境経営学会／日本工業新聞社 2002/03
	62 書籍	環境経営学の確立に向けて(環境経営学)(改訂版)／鈴木幸毅／税務経理協会 2002/01
	63 書籍	地球環境問題と各国・企業の環境対応(環境経営学)／鈴木幸毅／税務経理協会 2001/10
	64 書籍	図解環境と経営がわかる本／森田浩史／日本実業出版社 2001/09
	65 書籍	環境ビジネスの展開(環境経営学)環境に優しい企業への変革／鈴木幸毅/関根雅則／税務経理協会 2001/08
	66 書籍	企業経営の社会性研究社会貢献・地球環境・高齢化への対応／丹下博文／中央経済社 2001/09
	67 書籍	地球環境と企業経営環境経営をリードする経済人たち／三橋規宏／東洋経済新報社 2001/09
	68 書籍	IBMの環境経営 世界共通の環境マネジメント・システム／山本和夫/国部克彦／東洋経済新報社 2001/08
	69 書籍	住まい発“環境革命”デスポーザーが日本を変える！非常識が勝った大逆転の経営戦略／鶴蒔靖夫／IN通信社 2001/08
	70 書籍	経営環境論(日本経営学基礎シリーズ)(第2版)／小椋康宏／学文社 2001/04
	71 書籍	環境経営戦略のノウハウここまでは知っておきたい／朝日監査法人／東京経済情報出版 2001/05
	72 書籍	トヨタ「環境経営」ゼロエミッションへの挑戦／千葉三樹男／かんき出版 2001/03
	73 書籍	検証！環境経営への軌跡／グリーンフォーラム21/山口民雄／日刊工業出版プロダクション(日刊工業新聞社)
	74 書籍	企業経営のための環境会計／日本公認会計士協会／日経BP社(日経BP出版センター) 2000/12
	75 書籍	環境経営のためのPRTRシステム導入ハンドブック／生田孝史/濱崎博／日本法令 2000/11
	76 書籍	環境会計と情報開示(環境経営学)／鈴木幸毅／税務経理協会 2000/11
	77 書籍	図解ひとめでわかる環境経営／稲永弘/浦出陽子／東洋経済新報社 2000/11
	78 書籍	企業別環境経営実例集産業のグリーン化と環境格付け／エコビジネスネットワーク／産学社 2000/11
	79 書籍	環境経営 戦略環境リストラクチャリングと人材育成／宜川克／三修社 2000/11
	80 書籍	環境経営最前線／日本環境倶楽部／大成出版社 2000/10
	81 書籍	環境会計のための情報システム環境経営への新しい測定アプローチ／石川昭/古田洋／環境新聞社 2000/08
	82 書籍	環境経営の基本知識循環型経済社会とマーケティング戦略／片山又一郎／プレイヤー・コーポレーション(評言社) 2000/08
	83 書籍	パワーイノベーション(環境経営)5／寺本義也/原田保／同友館2000/05
	84 書籍	経営管理と環境管理(新版)／上武健造／八千代出版2000/01
	85 書籍	循環型社会の企業経営(環境経営学)／鈴木幸毅／税務経理協会2000/04
	86 書籍	21世紀の環境経営環境管理・会計の方向性を探る／日経産業消費研究所／日経産業消費研究所(日本経済新聞社)1999/02
	87 書籍	エコデザイン戦略環境経営／山本良一/益田文和／ダイヤモンド社1999/12
	88 書籍	CO2・リサイクル対策総覧環境経営・政策・制度編／山中唯義／マイガイア(通産資料調査会)1999/10

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル／著者・編者／出版社・発行元／発行年月
	89 書籍	自動車整備白書(経営環境変化対応シリーズ)平成11年版／日本自動車整備振興会連合会／日本自動車整備振興会連合会 1999/08
	90 書籍	環境経営学の確立に向けて(環境経営学)／鈴木幸毅／税務経理協会 1999/11
	91 書籍	地球環境時代の国際経営／安室憲一／白桃書房 1999/10
	92 書籍	経営管理と環境管理／上武健造／八千代出版 1998/03
	93 書籍	環境経営ゼロマネジメントへの挑戦／日本経済新聞社／日本経済新聞社 1999/04
	94 書籍	環境経営論(自然環境と人間の存在)2／松行康夫／北原貞輔／税務経理協会 1999/01
	95 書籍	森と緑の教育現場から新時代の環境保全と企業経営の接点を求めて3／篠田暢之／碩文社 1997/06
	96 書籍	よくわかる環境経営(PHP Business selection)「容器包装リサイクル法」から「グリーン調達」まで／林田学／PHP研究所 1998/
	97 書籍	経営環境論(日本経営学基礎シリーズ)／小椋康宏／学文社 1998/04
	98 書籍	環境経営論(自然破壊と修復のつなひき)1／北原貞輔／松行康夫／税務経理協会 1998/04
	99 書籍	環境経済学概論エコロジーと新しい経営戦略／後藤公彦／朝倉書店 1998/03
	100 書籍	環境調和型企業経営／佐々木弘／文真堂 1997/11
	101 書籍	エコのパワー環境産業革命に挑む前川製作所の有機経営／徳丸壮也／ダイヤモンド社 1997/09
	102 書籍	経営環境の変化に対応した企業の教育訓練に関する調査研究報告書／兵庫県労働経済研究所 1986/03
	103 書籍	環境の世紀の経営学持続可能な社会をつくる経済主体／大嶋茂男／家の光協会 1995/10
サステナブル	104 書籍	サステナビリティ革命 / ポール・ホーケン[他]. -- ジャパンタイムズ, 1995.7
	105 書籍	サステナブル・カンパニー / 山本良一. -- ダイヤモンド社, 2001.12
	106 書籍	サステナブル経営 / 日本地域社会研究所. -- 日本地域社会研究所, 2004.5. -- (コミュニティ・ブックス)
	107 書籍	サステナブル建築と政策デザイン / 村上周三. -- 慶應義塾大学出版会, 2002.5
	108 書籍	サステナブル社会への道筋 / 月尾嘉男. -- 東洋経済新報社, 1996.6
	109 書籍	サステナブル時代のコミュニケーション戦略 / 宮田穰. -- 同友館, 2004.10
	110 書籍	サステナブルデザイン / 山際康之. -- 丸善, 2004.4
	111 書籍	サステナブル・デモクラシー / アダム・プシェヴォルスキ[他]. -- 日本経済評論社, 1999.3
	112 書籍	サステナブルな都市交通システムを目指して. -- 日本都市計画学会関西支部サステナビリティ研究グループ, [2001]
	113 書籍	東南アジアサステナブル世界への挑戦 / 加茂利男, 遠州尋美. -- 有斐閣, 1998.2. -- (有斐閣選書)
	114 書籍	マクロシフト / アービン・ラズロ[他]. -- 文春ネスコ, 2002.3
	115 書籍	環境プレイヤーズ・ハンドブック. 2005 / 電通エコ・コミュニケーション・ネットワーク. -- ダイヤモンド社, 2004.9
持続可能	116 書籍	地球市民になるための学び方(全3巻)「持続可能な開発のための教育」に向けて / 東京国際大学/下羽友衛 / 日本図書センター 2005/05
	117 書籍	持続可能な地域社会のデザイン(Tajimi City Booklet) / 植田和弘 / 公人の友社 2005/04
	118 書籍	持続可能な発展のための人間の条件 / 中島正博 / 大学教育出版 2005/04
	119 書籍	持続可能な都市欧米の試みから何を学ぶか / 福川裕一/矢作弘 / 岩波書店 2005/04
	120 書籍	市民活動論(有斐閣コンパクト) 持続可能で創造的な社会に向けて / 後藤和子/福原義春 / 有斐閣 2005/04

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル/著者・編者/出版社・発行元/発行年月
	121 書籍	持続可能な社会のための環境学習知恵の環を探して / 木俣美樹男/藤村コノエ / 培風館 2005/04
	122 書籍	ヒューマン・エコロジー入門持続可能な発展へのニュー・パラダイム / ジェラルド・G. マーテン/天野明弘 / 有斐閣
	123 書籍	持続可能な「社会的経済」への革新生命地域づくりで経済的基盤をつくる / 生活ジャーナル(生命地域) 2004/04
	124 書籍	地球よ永遠なれ! 持続可能な開発のための7章 / 石塚義高 / 近代文芸社 2004/12
	125 書籍	持続可能な成長のための品質機能展開JIS Q 9025の有効活用法とその事例 / 吉沢正/大藤正 / 日本規格協会 2004/12
	126 書籍	持続可能な地域経済の再生地域の現場に学ぶ / 東北開発研究センター / ぎょうせい 2004/11
	127 書籍	森林の持続可能性その歴史、挑戦、見通し / ドナルド・W. フロイド/村島由直 / 日本林業調査会 2004/11
	128 書籍	持続可能社会構築のフロンティア環境経営と企業の社会的責任(CSR) / 天野明弘/大江瑞絵 / 関西学院大学出版会 2004/10
	129 書籍	持続可能な廃棄物処理のために総合的アプローチとLCAの考え方 / フォーブズ・R. マクドゥーガル/松藤敏彦 / 技報堂出版 2004/10
	130 書籍	社会環境学のアイデンティティ持続可能な経済社会システムの実現 / 野上健治 / 学文社 2004/10
	131 書籍	ナチュラル・アドバンテージ有機農法に学ぶビジネスの持続可能性とローハス企業 / アラン・ヒークス/ネクサスインターコム有限会社 / ネクサスインターコム(星雲社) 2004/09
	132 書籍	生物環境科学入門持続可能な社会をめざして / 水谷広 / 森北出版 2004/10
	133 書籍	ゼロからわかる生態学環境・進化・持続可能性の科学 / 松田裕之 / 共立出版 2004/09
	134 書籍	持続可能な地域社会のデザイン(講座新しい自治体の設計) 生存とアメニティの公共空間 / 植田和弘 / 有斐閣
	135 書籍	環境税財政改革と持続可能な福祉社会 / 足立治郎 / 築地書館 2004/07
	136 書籍	自然再生(中公新書) 持続可能な生態系のために / 鷲谷いづみ / 中央公論新社 2004/06
	137 書籍	社会的責任マネジメント企業の持続可能な発展と安全確保 / 清水克彦 / 共立出版 2004/06
	138 書籍	ソーラーエネルギー利用技術地球温暖化の抑制と持続可能な発展のために / 金山公夫/馬場弘 / 森北出版
	139 書籍	循環型社会(中公新書) 持続可能な未来への経済学 / 吉田文和 / 中央公論新社 2004/04
	140 書籍	ヨハネスブルグ・サミットからの発信「持続可能な開発」をめざして—アジェンダ21 / 週刊「エネルギーと環境」編集部 / エネルギージャーナル社 2003/11
	141 書籍	中心市街地再生と持続可能なまちづくり / 中出文平/地方都市研究会 / 学芸出版社(京都) 2003/11
	142 書籍	地球憲章持続可能な未来に向けての価値と原則 / 地球憲章推進日本委員会 / ぎょうせい 2003/10
	143 書籍	持続可能な開発 / ジェニファー・A. エリオット/古賀正則 / 古今書院 2003/10
	144 書籍	新たな森林管理持続可能な社会に向けて / 藤森隆郎(1938-) / 全国林業改良普及協会 2003/03
	145 書籍	総合政策学の最先端(市場・リスク・持続可能性 岡部光明) 1 / 梅垣理郎 / 慶応義塾大学出版会 2003/10
	146 書籍	よくわかる地球環境工学持続可能な開発のために / 金成英夫 / 東洋書店 2003/08
	147 書籍	ビオシティ(特集: 持続可能なヒューマン・エコデザイン) no. 26 / ビオシティ(信山社出版) 2003/08
	148 書籍	クオリティマネジメントシステム持続可能な成長の指針/自己評価の指針 / 日本規格協会 / 日本規格協会
	149 書籍	日本再生のルール・ブック(海象ブックレット) ナチュラル・ステップと持続可能な社会 / 高見幸子 / 海象社(文京区) 2003/07
	150 書籍	持続可能な交通シナリオ・政策・運動 / 上岡直見 / 緑風出版 2003/07
	151 書籍	持続可能な地球環境を未来へリオからヨハネスブルグまで / 太田宏/毛利勝彦 / 大学教育出版 2003/04

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル/著者・編者/出版社・発行元/発行年月
	152 書籍	持続可能な発展のための環境会計/石津寿恵/白桃書房 2003/03
	153 書籍	持続可能な事業にするための環境ビジネス学/勝田悟/中央経済社 2003/04
	154 書籍	持続可能な消費と生活者(放送大学教材)/原ひろ子/小沢紀美子/放送大学教育振興会(日本放送出版協会)
	155 書籍	持続可能な地域づくりのためのガイドブック/環境省総合環境政策局/ぎょうせい 2002/09
	156 書籍	環境を平和学する!「持続可能な開発」からサブシステム志向へ/戸崎純/横山正樹/法律文化社 2002/06出版 220, 21cm ISBN:4589025930 ¥2,205(税込)
	157 書籍	環境白書 平成14年版/環境省総合環境政策局/ぎょうせい 2002/
	158 書籍	われら共有の農業持続可能な農業の確立に向けて/東京農工大学/古今書院 2002/04
	159 書籍	アジアにおける持続可能で平和なエネルギーのためのネットワークエネルギー市場再構築~公正で持続可能な社会へに向けて/原子力資料情報室2001/12
	160 書籍	森林ビジネス革命環境認証がひらく持続可能な未来/マイケル・B. ジェンキンス/エミリー・T. スミス/築地書館
	161 書籍	エコデザイン持続可能な生産と消費のための将来性あるアプローチ/永田勝也/ミクニヤ環境システム研究所株式会社/ミクニヤ環境システム研究所 2001/10
	162 書籍	環境問題と国際協力持続可能な開発に向かって/鳥飼行博/青山社(相模原) 2001/02
	163 書籍	コンパクトシティ持続可能な社会の都市像を求めて/海道清信/学芸出版社(京都) 2001/08
	164 書籍	持続可能な社会への英知世界に学ぶ暮らし方・生き方/大久保昇/オーク 2001/08
	165 書籍	持続可能な社会をめざす大量リサイクルでは資源循環できない/中村正子/柘植書房新社 2001/05
	166 書籍	21世紀の羅針盤“持続可能な社会”めざして/静岡新聞社/静岡新聞社 2001/03
	167 書籍	持続可能な社会への選択未来ある21世紀のために/入江政昭/文芸社 2000/08
	168 書籍	ジェンダーの生活経済論(Minerva福祉ライブラリー)持続可能な消費のために/伊藤セツ/ミネルヴァ書房
	169 書籍	コンパクトシティ持続可能な都市形態を求めて/マイク・ジェンクス/エリザベス・バートン/阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワ 2000/03
	170 書籍	森との共生(丸善ライブラリー)持続可能な社会のために/藤森隆郎/丸善 2000/06
	171 書籍	持続可能な日本土木哲学への道/吉原進/技報堂出版 2000/05
	172 書籍	持続可能(サステイナブル)な地域社会をめざして(武蔵工業大学横浜社会人大学講座)都筑環境情報フォーラム/武蔵工業大学環境情報学部 1999/10
	173 書籍	環境問題への誘い(早稲田大学教育総合研究所叢書)持続可能性の実現を目指して/北山雅昭/学文社
	174 書籍	21世紀の問題群持続可能な発展への途/佐和隆光/新曜社 2000/03
	175 書籍	持続可能な社会のための消費者教育環境・消費・ジェンダー/松葉口玲子/近代文芸社 2000/02
	176 書籍	持続可能な社会をめざしてCOP3(地球温暖化防止京都会議)NGO-国際市民/ヤマセミ 1998/05出版 223p 30cm ¥1,050(税込) 入手不可
	177 書籍	グリーンディベロップメント環境と調和する持続可能な発展に向けて/RockyMountainInsti/石黒隆敏/丸善
	178 書籍	持続可能な日本(シリーズ21世紀の生活価値展望)循環型社会への道/油谷遵/辻中俊樹/游商品環境デザイン研究所(パーソナルケア) 1999/04
	179 書籍	社長のろまんは社員のフマン持続可能な循環型社会をめざして/永野正展/相愛 1999/07
	180 書籍	グローバル・フェミニズム女性・環境・持続可能な開発/ロッシ・ブライドッチ/寿福真美/青木書店 1999/08
	181 書籍	グローバル時代の環境戦略持続可能な世界の発展をめざして/経済協力開発機構/井上昭正/三修社 1999/08

## 文献データ&lt;1995年以降&gt; (下村副委員長 作成)

検索キーワード	分類	タイトル／著者・編者／出版社・発行元／発行年月
	182 書籍	DSMの時代(早稲田大学理工総研シリーズ)持続可能なエネルギー供給を目指して／尾島俊雄/田中俊彦／早稲田大学出版部 1999/05
	183 書籍	産業と地球環境地球環境危機と持続可能なシステムの構築 1999年版／産業技術会議／産業技術会議 1999/02
	184 書籍	持続可能な日本(シリーズ21世紀の生活価値展望)循環型社会への道／油谷遵/辻中俊樹／游商品環境デザイン研究所(みき書房) 1999/04
	185 書籍	エコ・エフィシエンシーへの挑戦持続可能発展のための産業界のリーダーシップ／リビノ・D. デシモン/山本良一／日科技連出版社 1998/11
	186 書籍	岩波講座地球環境学(持続可能な社会システム 内藤正明) 10／高橋裕／岩波書店 1998/06
	187 書籍	持続可能な成長と新たな経済社会モデルの構築97年度経済情勢報告／連合総合生活開発研究所／第一書林
	188 書籍	新・地球環境論持続可能な未来をめざして／和田武／創元社(大阪) 1997/11
	189 書籍	環境研究・環境技術ビジョン持続可能な未来のために／環境庁／国立印刷局 1997/08
	190 書籍	金融市場と地球環境持続可能な発展のためのファイナンス革命／シュテファン・シュミットハイニー/環境と金融に関する研究会／ダイヤモンド社 1997/06
	191 書籍	持続可能な水環境政策／菅原正孝／技報堂出版 1997/05
	192 書籍	平和研究(特集:「持続可能な発展」と日本の選択)第21号／日本平和学会(早稲田大学出版部) 1996/11
	193 書籍	産業エコロジー持続可能な地球社会に向けて／トーマス・E. グレーデル/B. R. アレンビー／トッパン 1996/10
	194 書籍	新たな時代の食料生産システム低投入・持続可能な農業に向けて／システム農学会／農林統計協会 1996/07
	195 書籍	21世紀も人間は動物である持続可能な社会への挑戦日本vsスウェーデン／小沢徳太郎／新評論 1996/07
	196 書籍	持続可能性の経済学循環型社会をめざして／慶応義塾大学経済学部環境プロジェクト／慶応義塾大学出版会
	197 書籍	ゼロ・エミッション持続可能な産業システムへの挑戦／フリットヨフ・カプラ/ギュンター・A. パウリ／ダイヤモンド社
	198 書籍	持続可能リサイクル設計入門(エコマテリアルシリーズ)／長井寿／化学工業日報社 1995/11
	199 書籍	サステナブル・コミュニティ持続可能な都市のあり方を求めて／川村健一/小門裕幸／学芸出版社(京都) 1995/11
	200 書籍	環境の世紀の経営学持続可能な社会をつくる経済主体／大嶋茂男／家の光協会 1995/10
	201 書籍	環境ラベル持続可能社会の実現に向けてエコマークから環境調和型／産業環境管理協会(丸善) 1995/08
	202 書籍	ディーブ・エコロジー考持続可能な未来に向けて／フリットヨフ・カプラ/アーネスト・カレンバック／佼成出版社
	203 書籍	循環の経済学持続可能な社会の条件／室田武／学陽書房 1995/04
	204 書籍	環境保全と経済の発展持続可能な発展を目指して／大蔵省財政金融研究所/環境保全型の経済発展の在り方に関する研究／ダイヤモンド社 1994/09
	205 書籍	新しい環境経済学持続可能な発展の理論／デーヴィッド・W. ピアース/和田憲昌／ダイヤモンド社 1994/09
	206 書籍	チェンジング・コース持続可能な開発への挑戦／シュテファン・シュミットハイニー/持続可能な開発のための経済人会議／ダイヤモンド社 1992/06
	207 書籍	持続可能性への挑戦(2010年への選択シリーズ)国民生活のゆとりとバランスをめざして／経済企画庁総合計画局／国立印刷局 1991/10
	208 書籍	持続可能な成長の政治経済学エコミーとエコロジーの統合／ジム・マクニール/日米欧委員会／ダイヤモンド社
	209 書籍	地球白書持続可能な社会をめざして／レスター・R. ブラウン/本田幸雄／ベネッセコーポレーション 1986/03
	210 書籍	ノーマンの技術文明論持続可能社会への展望／コリン・ノーマン/青山貞一／学陽書房 1982/08

雑誌・ジャーナル記事（下村副委員長 作成）

資料3-2  
2005.7.14

番号	タイトル	雑誌名
1	農産物流通における農薬の適正使用と安全性の考え方--SEQ(安全・環境・品質)農産物認証基準の事例(特集:食の安全確保) / 徳江 倫明	食品工業. 48(10) (通号 1080) [2005.5.30]
2	ロジスティクス 第5回国際コンテナ・ロジスティクス講座 小売業の経営環境とグローバル調達物流	海運. (通号 931) [2005.4]
3	海外企業の参入に晒されるわが国小売企業の現状と課題(ロジスティクス 第5回国際コンテナ・ロジスティクス講座 小売業の経営環境とグローバル調達物流) / 加藤 孝治	海運. (通号 931) [2005.4]
4	流通環境の変化と我が国小売業におけるグローバル調達の課題(ロジスティクス 第5回国際コンテナ・ロジスティクス講座 小売業の経営環境とグローバル調達物流) / 橋本 雅隆	海運. (通号 931) [2005.4]
5	日米の小売業に関する直輸入商品の調達について(ロジスティクス 第5回国際コンテナ・ロジスティクス講座 小売業の経営環境とグローバル調達物流) / 坂本 英樹	海運. (通号 931) [2005.4]
6	物流経営管理の動向・課題 環境報告書にみる物流環境活動	物流情報. 7(2) [2005.3・4]
7	環境報告書 日本コパック(株) (物流経営管理の動向・課題 環境報告書にみる物流環境活動)	物流情報. 7(2) [2005.3・4]
8	第4章 物流会社における環境マネジメントシステムの導入の考え方と展開(特集 物流業界におけるISO導入事例と活用)	ISOマネジメント. 6(3) (通号 53) [2005.3]
9	T社のISO14001導入事例 “活かすISO”にこだわった環境マネジメントシステム(特集 物流業界におけるISO導入事例と活用) -- (第4章 物流会社における環境マネジメントシステムの導入の考え方と展開) /	ISOマネジメント. 6(3) (通号 53) [2005.3]
10	富士製粉運輸(株)のISO14001導入事例 本社機能と一体となった富士製粉運輸のISO14001活動(特集 物流業界におけるISO導入事例と活用) -- (第4章 物流会社における環境マネジメントシステムの導入の考え方と展開) / 白濱 伸也 ; 平林 晃一	ISOマネジメント. 6(3) (通号 53) [2005.3]
11	物流効率化によるCO2削減効果(環境・福祉・国際協力特集) / 紀伊 雅敦 ; 廣田 恵子 ; 湊 清之	自動車研究. 27(2) [2005.2]
12	湯浅和夫の物流コンサル道場(第34回)サロン編 避けられない環境対策 / 湯浅 和夫	Logi biz. 4(11) (通号 47) [2005.2]
13	近未来の造船を巡る6つの課題--エネルギー・環境と海運物流の潮流に沿って / 湯原 哲夫	Techno marine. (883) [2005.1]
14	ピンポイント(3)生産・物流・流過程における環境負荷低減と安全・衛生--工場から輸配送・店舗流通までのサプライチェーン現場でできること(特集 2005年の物流・流通(サプライチェーン)システム技術トレン	マテリアルフロー. 46(1) (通号 538) [2005.1]
15	物流と環境 地球温暖化対策推進大綱の評価・見直しの状況及び排出量取引制度の検討状況について / 清水 康弘	物流情報. 7(1) [2005.1・2]
16	環境・その他編(特集 データで見る日本の物流2005) -- (データ編)	流通設計21. 2005年(2月)
17	総合物流企業が先頭に立ち海洋環境保全に努力--日本郵船(株)の担当者にバラスト水問題で聞く(特集 バラスト水への取り組み)	海と安全. 38(522) [2004.秋]
18	講演録 平成15年度物流講演会 物流・ロジスティクスを取り巻く環境変化とモーダルシフトの推進について / 谷本 谷一	関西交通経済研究センター. (110) [2004.春季]
19	日本で初の本格的なシンポジウム開催--中国でのロジスティクス環境の改善に向け11項目提言(アジアをリード 日中の物流連携)	荷主と輸送. 31(9) (通号 362) [2004.12]
20	廃棄物リサイクルの物流ネットワークの最適化技術(環境・エネルギー特集号) / 吉永 陽一 ; 西名 慶晃 ; 猪子 正邦	JFE技報. (6) [2004.12]
21	トラック運送業界の環境保全対策への取り組みについて--人と地球・地域にやさしい物流をめざして / 大和 健司	関交研. 2004(秋季) [2004.11]
22	物流と環境 循環型社会を目指す新環境輸送運動(SKY運動) / 小林 敏夫	物流情報. 6(6) [2004.11・12]

番号	タイトル	雑誌名
23	第1特集 環境とコストを両立する エコ物流を極める / 高田 憲一 ; 田中 太郎	日経エコロジー. (65) [2004.11]
24	実践段階に入った環境対策 知恵を絞り、コストも抑える (第1特集 環境とコストを両立する エコ物流を極	日経エコロジー. (65) [2004.11]
25	市政ルポ 自然との共生・市民協働の願い、環日本海・国際物流都市への想い—原点は自然が醸成した 地域アイデンティティー 豊栄市	市政. 53(9) (通号 626) [2004.9]
26	JR貨物 循環型社会の実現に向けた静脈物流への取り組み (The Theme/環境対策) / 小栗 信輔	JR gazette. 62(9) (通号 663) [2004.9]
27	物流経営管理の動向・課題 ヤマト運輸の環境対策への取り組み / 森田 雅哉	物流情報. 6(5) [2004.9・10]
28	物流と環境 環境会計ガイドラインの改訂について	物流情報. 6(5) [2004.9・10]
29	市政ルポ 自然環境・都市的環境・生活環境のバランスに優れた都市を目指して—物流・人流・清流のま ちづくり 北広島市	市政. 53(7) (通号 624) [2004.7]
30	FOCUS Material Handling 安全かつ高能力、環境に優しい物流システム機器開発のために—(社)日本産 業機械工業会が取り組む標準化活動の新たなテーマと現状 / 高村 直樹 ; 松岡 義人 ; 清水 信朗	マテリアルフロー. 45(7) (通号 532) [2004.7]
31	都市構造の改編による交通の環境インパクトの変化に関する研究 / 苦瀬 博仁	日交研シリーズ. A. (通号 359) [2004.7]
32	大都市商業業務地区における総合的交通需要管理施策に関する研究—人流・物流—体型アプローチに よる交通環境影響把握 / 高橋 洋二	日交研シリーズ. A. (通号 361) [2004.7]
33	環境 メーカー物流の環境対応とモーダルシフト	海運. (通号 922) [2004.7]
34	インタビュー グローバルな環境分析体制の整備 キヤノン 小竹正躬氏 ロジスティクス本部上席担当部長、 山口雅史氏 同本部ロジスティクス業務センター物流管理部物流管理課兼環境物流推進課長 (環境 メーカー 物流の環境対応とモーダルシフト) / 小竹 正躬 ; 山口 雅史	海運. (通号 922) [2004.7]
35	インタビュー 循環ロジスティクスシステムの構築 リコーロジスティクス 菅田勝氏 経営管理本部副本部長 (環境 メーカー物流の環境対応とモーダルシフト) / 菅田 勝	海運. (通号 922) [2004.7]
36	物流と環境 JALグループの環境問題への取り組み / 松元 泰志	物流情報. 6(4) [2004.7・8]
37	インタビュー マリンシフトには荷主、物流会社の意識改革が必要 青島衛氏 日鐵物流(株)常務取締役 (特集 環境の世紀とモーダルシフト) / 青島 衛	海運. (通号 921) [2004.6]
38	セミナー SCMの進展と物流業の役割 (特集 環境の世紀とモーダルシフト) / 日本物流団体連合会	海運. (通号 921) [2004.6]
39	クール宅配使用クーリング・ロール・ボックス (特集:飲料・食品関連の機器および設備の最新動向) — (最 新の飲料・食品関連機器) / 伊澤 喜久男	冷凍. 79(919) [2004.5]
40	環境時代にふさわしい総合的な都市圏物流施策評価システムの開発 (特集:物流対策の新たな取り組 み) / 家田 仁 ; 佐野 可寸志	土木技術資料. 46(4) [2004.4]
41	環境保全のための包装事例—資材・技法を通じての実践(9)通い物流システム(Reuse-System) / 橋爪 文彦 ; 林 正基	マテリアルフロー. 45(4) (通号 529) [2004.4]
42	走れ!物流委員会 下取り複写機の静脈物流共同化で高度資源循環型社会の形成に寄与 / ビジネス機 械情報システム産業協会静脈物流プロジェクト委員会	マテリアルフロー. 45(4) (通号 529) [2004.4]
43	物流業における環境経営の現状と課題—佐川急便の取り組み (特集:交通事業と環境経営) / 別所 恭一	運輸と経済. 64(4) (通号 682) [2004.4]
44	水産物のトラック輸送を取り巻く環境の変化 (特集 魚の物流を考える—鮮度と情報をつなぐハード・ソフ	アクアネット. 7(3) (通号 69) [2004.3]
45	中小トラック運送業の動向—排気ガスの規制強化など環境変化への対応策 / 伊藤 隆	信金中金月報. 3(2) (通号 370) [2004.2]
46	地域だより 北陸発 東海北陸自動車道は北陸の人・物流をどう変えるか?—高まる環日本海交流促進へ の期待 / 酒井 孝治	日経研月報. (307) [2004.1]

番号	タイトル	雑誌名
47	環境・安全・国際化核に物流の最適化を目指す―新物流大綱の仕上げに向けた国交省の重点施策・その現状と今後（特集 物流効率化策・2004年のトレンド―国土交通省・経済産業省に聞く政策展望とキーワード）／坂場 正保	マテリアルフロー. 45(1) (通号 526) [2004.1]
48	輸送試験データに基づく包装試験規格の決定（特集 包装貨物試験規格設定のための物流環境調査）／長谷川 淳英	日本包装学会誌. 13(2) [2004]
49	包装貨物落下試験条件の基準化（特集 包装貨物試験規格設定のための物流環境調査）／大塚 広樹	日本包装学会誌. 13(2) [2004]
50	輸送試験データの試験規格化（振動試験）（特集 包装貨物試験規格設定のための物流環境調査）／阿部	日本包装学会誌. 13(2) [2004]
51	特集 包装貨物試験規格設定のための物流環境調査	日本包装学会誌. 13(2) [2004]
52	Measuring environmental data in the Oruro-Yacuiba route in BOLIVIA to develop testing methods for packaging for future implementation in the laboratory / Norma Rodriguez ; Miguel Angel Rossi ; 高山 臣	日本包装学会誌. 13(6) [2004]
53	環境・その他編（特集 データで見る日本の物流2004）―（データ編）	流通設計21. 2004年(2月)
54	特別インタビュー 環境・食糧・物流の3本柱で統合の成果を最大限に生かす―東京海洋大学長 高井陸雄氏 / 高井 陸雄	流通設計21. 2004年(4月)
55	現場は語る 物流への提言(5)物流大学校講座修了論文より 21世紀は“安全”の時代 環境と交通事故の2つの社会問題に新しい認識と体制で / 水野 雅之	流通設計21. 2004年(8月)
56	物流ニュービジネスの動向(2)物流業界に課せられた環境問題 ビジネスとしての取り組みを追う / 山鳥	流通設計21. 2004年(12月)
57	物流における環境負荷低減（特集 環境経営）―（Green Factories(グリーンファクトリ)）／宮崎 恵之助	Fujitsu. 54(6) (通号 319) [2003.11]
58	特集 静脈物流―循環型社会を目指して	港湾. 80(11) (通号 911) [2003.11]
59	寄稿 ロッテルダムの港湾にみる静脈物流、廃棄物処理の取り組み（特集 静脈物流―循環型社会を目指して）／坂井 順行	港湾. 80(11) (通号 911) [2003.11]
60	環境調和型ロジスティクスマネジメントシステム導入マニュアル(2)共同輸配送と物流EDI活用による環境負荷低減について―東芝物流株式会社の事例より / 齊藤 伸二	流通ネットワーキング. (通号 177) [2003.11]
61	物流と環境 我が国における温暖化対策税制について―講演会「環境税制について考える」より / 佐野	物流情報. 5(6) [2003.11・12]
62	静脈物流に資する建設資材の流通実態調査（第14回廃棄物学会研究発表会）／山田 正人；石垣 智基；玉井 伸明 他	廃棄物学会研究発表会講演論文集. 14回(分冊1) [2003.10.22-24]
63	私の提言 人間と共生する物流機器―環境変化に応じた作業改善・システム設計 / 高橋 輝男	マテリアルフロー. 44(10) (通号 523)
64	中国物流 上海・長江流域の物流環境―海事産業研究所セミナー	海運. (通号 913) [2003.10]
65	CASE STUDY 三菱電機(エコ物流)―環境を切り口に物流改善を本格化 目標は3年間でCO2排出量2割	Logi biz. 3(7) (通号 31) [2003.10]
66	JAMA Committees 環境と調和した物流・人流の一翼として―大型車特別委員会の活動について / 蛇川	自動車工業. 37 (通号 440) [2003.9・10]
67	包装の見直しは環境対応の原点―東芝物流株式会社の事例より（特集 環境調和型ロジスティクスマネジメントシステム導入マニュアル）／齊藤 伸二	流通ネットワーキング. (通号 175) [2003.9]
68	物流と環境 札幌通運における環境対策への取り組みについて / 富山 憲一	物流情報. 5(5) [2003.9・10]
69	図解:最新物流センター 環境と人に配慮した環境循環型物流センター 大阪いずみ市民生活協同組合「テクノステージ物流センター」	物流情報. 5(5) [2003.9・10]
70	幹線物流輸送におけるTDM補助制度（特集 新環境下の鉄道貨物の展望）／田口 弘明	運輸と経済. 63(8) (通号 674) [2003.8]
71	循環型経済社会システムの構築に向けた港湾を核とした静脈物流の役割 / 納富 信；永田 勝也	海事産業研究所報. (445) [2003.7]

雑誌・ジャーナル記事（下村副委員長 作成）

番号	タイトル	雑誌名
72	「モーダルシフト」へアクションプログラム 国際海上コンテナを含む鉄道/内航利用の促進を—環境負荷の小さい物流体系と国際競争力強化も	荷主と輸送. 30(3) (通号 344) [2003.6]
73	特集 都道府県政令都市 2003年度厚生・労働・環境関係予算(21・完)子育て、少子化対策に重点—広域静脈物流システムを調査—山口県	厚生福祉. (5116) [2003.6.10]
74	モスフードサービス&味の素物流<静脈物流>—食品の一括配送回収システムを構築 野菜くずの循環型リサイクルで協業	Logi biz. 3(3) (通号 27) [2003.6]
75	立体自動倉庫編 環境に配慮したマテハン製品と納入事例 (特集 運搬機械) — (物流システム機器) / 松岡 義人	産業機械. (632) [2003.5]
76	立体自動倉庫編 環境保全に貢献する省エネ、省スペースマテハン—超高層50m立体自動倉庫 (特集 運搬機械) — (物流システム機器) / 小林 由昌 ; 田淵 広将	産業機械. (632) [2003.5]
77	物流と環境 リサイクルポート推進協議会の設立について / 小倉 康嗣	物流情報. 5(3) [2003.5]
78	特集:環境にやさしい物流	地球環境. 34(3) (通号 402) [2003.3]
79	提案動向 認可第1号狙う北九州市「国際物流特区」—事例研究 青森県・環境エネルギー特区、、三重県・四日市産業再生特区など (特集 始動する構造改革特区—試される自治体の知恵・力量)	日経地域情報. (408) [2003.2.3]
80	INTERVIEW 厳しいデフレ環境下に物流拠点集約が奏功—集約物流センター新設で生産性向上、物流コスト削減に如実な効果生む (株)サンリオ ディストリビューションセンター次長 原田清 / 原田 清	マテリアルフロー. 44(2) (通号 515) [2003.2]
81	研究展望 生物流体力学のマイクロな視点(細胞レベルの内皮細胞の血行力学的環境) (特集 生体材料のバイオエンジニアリング) / 福島 修一郎 ; 谷下 一夫	日本機械学会論文集. A編. 69(677) [2003.1]
82	物流政策 新時代の物流環境整備へ政策推進—港湾サービス改善、環境保全対策、高度情報技術の活用…… 国交省の重点施策を聞く 国土交通省 辻村邦康 (特集 2003年のロジスティクス—その焦点と課題を追う) / 辻村 邦康	マテリアルフロー. 44(1) (通号 514) [2003.1]
83	物流政策 情報・共同・標準化、そして国際化と環境—5つのキーワードを軸に見る経産省の重点政策、SCM、EDIの普及推進からRFIDの新技术開発まで 経済産業省 柚谷晴久 (特集 2003年のロジスティクス—その焦点と課題を追う) / 柚谷 晴久	マテリアルフロー. 44(1) (通号 514) [2003.1]
84	物流パラダイムシフト時代の課題と戦略(57)日本経済の再生化を握る「循環型産業」の育成(2) / 津久井	流通ネットワークング. (通号 167) [2003.1]
85	研究・調査3 現下の海運市場—環境好転の不定期船(1月15日現在) (上海を中心とした中国物流関連特集) / 篠田 匡史	海事産業研究所報. (439) [2003.1]
86	青果物流通における環境調和型包装の現状と展望 / 椎名 武夫	日本包装学会誌. 12(4) [2003]
87	業務地区における物流共同化方策が交通・環境へ及ぼす効果に関する研究—丸の内地区を事例として / 高橋 洋二 ; 兵藤 哲朗 ; 小池 龍太	都市計画論文集. (38) [2003]
88	日本の物流データ—総合編/陸運編/倉庫編/海運編/航空編/マテハン編/環境・その他編 (特集 データで見る日本の物流2003)	流通設計21. 2003年(2月)
89	顧客内部の事情に踏み込んだ物流改革が経費削減と環境対応のカギ (特集 現場はまだよくなる—物流現場改善事例2003) — (短期集中連載 物流大学校講座終了論文より(1)「現場は語る」物流への提言) /	流通設計21. 2003年(6月)
90	特別寄稿 物流をめぐる環境施策の方向性—地方から大都市の環境対策を視る (特集 10	流通設計21. 2003年(10月)
91	特別取材 物流事業者の厳しさ理解できる 最大限の支援努力を続けたい—東京都環境局 自動車公害対策部 規制課長 古田博明氏 (特集 10	流通設計21. 2003年(10月)

番号	タイトル	雑誌名
92	特別寄稿 環境規制が物流に及ぼす影響 環境対応費用の回収が課題(特集 10)	流通設計21. 2003年(10月)
93	世界のロジスティクスを行く!(最終回)効率化と環境保護に注力した英セインズベリー物流センター / 鈴木	流通設計21. 2003年(12月)
94	Special Interview ユビキタス・コンピューティングが開くロジスティクスの新たな世界と展開—東京大学大学院 情報学環 教授 坂村健氏(特集 一次元バーコードから二次元バーコード・ICタグへ 自動認識技術で変わる物流) / 坂村 健	流通設計21. 2003年(12月)
95	経営環境の変化と物流業の生き残り戦略 / 松本 賢治	倉庫.(通号 121) [2003年度]
96	ロジスティクスを取巻く環境変化と荷主企業の動き・物流業者への要件 / 丸山 正晃	倉庫.(通号 121) [2003年度]
97	環境ISO取得による人材育成と企業体質の改善—物流QCチーム活動を導入して職場の活性化 / 山内	倉庫.(通号 122) [2003年度]
98	物流パラダイムシフト時代の課題と戦略(56)日本経済の再生化を握る「循環型産業」の育成 / 津久井 英	流通ネットワークング.(通号 166) [2002.12]
99	港湾を核とした総合的な静脈物流システムの構築(特集/循環型社会形成におけるエコタウン事業—自治体の廃棄物処理と環境産業) / 福元 正武	都市清掃. 55(250) [2002.11]
100	物流経営管理の動向・課題 トラック事業にみる環境対策	物流情報. 4(6) [2002.11]
101	物流と環境 環境税の理論的根拠と今後の展望 / 竹内 健蔵	物流情報. 4(6) [2002.11]
102	トラック運送業界の環境対応の現状(物流経営管理の動向・課題 トラック事業にみる環境対策) / 森田	物流情報. 4(6) [2002.11]
103	大気汚染・地球温暖化問題に対するヤマト運輸の取り組み(物流経営管理の動向・課題 トラック事業にみる環境対策) / 森田 雅哉	物流情報. 4(6) [2002.11]
104	佐川急便における環境対策の現状と課題(物流経営管理の動向・課題 トラック事業にみる環境対策) / 別所 恭一	物流情報. 4(6) [2002.11]
105	清末における国家的物流システム維持と近代交通手段の導入—漕運問題史上における盧漢鐵路計画の位置(環「東中国海」経済文化研究 近代東アジア経済・文化の発展と交流) / 千葉 正史	立命館言語文化研究. 14(2) [2002.9]
106	丸の内物流TDM実証実験の概要および効果検証結果(特集 大気汚染・地球環境問題への対応)—(道路環境における昨今の対策) / 水口 雅晴	道路.(通号 739) [2002.9]
107	環境保全型農業の普及のための一考察—産消提携から環境保全型農業の普及方策を探る / 井上 由賀里; 胡 柏	愛媛大学農学部紀要. 47(-) [2002.9]
108	インフラは「効率化」「環境対応」「情報化」がカギ アジアにらんだ地域間連携も急務(特集 物流新時代の地域戦略)	日経地域情報.(398) [2002.9.2]
109	特集 世界のモデルとなる循環型社会の構築を目指して—瀬戸内海エリアにおける焼却灰の静脈物流システムを提案 / 中国経済産業局環境資源部環境リサイクル課循環型産業振興室	METI Chugoku. (731) [2002.9]
110	物流と環境 使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)について / 環境省大臣官房廃棄物リサイクル対策部	物流情報. 4(5) [2002.9]
111	企業研究(14)サッポロビール アサヒ、キリンとの環境イメージ格差は埋められるのか? 省エネや物流改革でコスト削減を進める独自性のアピールが課題	日経エコロジー.(38) [2002.8]
112	環日本海国際物流の発展と日本海地域港湾の整備の方向性 / 梅村 幸一郎	北陸地方整備局管内技術研究会論文集. 2002年度 [2002.7]
113	JPI包装技術研究所活動報告 物流標準化懇話会幹事会と“環境JISの策定促進”の協力について	包装技術. 40(7)(通号 471) [2002.7]
114	循環型社会の構築と静脈物流(特集 静脈物流) / 山本 明弘	Indust. 17(6)(通号 176) [2002.6]

雑誌・ジャーナル記事（下村副委員長 作成）

資料3-2  
2005.7.14

番号	タイトル	雑誌名
115	インタビュー 環境対策事業の一貫として INAX、「オカラ飼料」販売—既存物流システムの有効活用で引き取りから販売まで手掛ける(株)INAX技術統括部事業開発部担当部長・久野裕明氏/同部食品リサイクルPJ・中宮敏博氏に聞く/久野 裕明;中宮 敏博	月刊養豚情報. 30(5) (通号 328) [2002.5]
116	展望 ユニットロードシステム化の今日的現状と課題—変貌する物流環境と効率化への対応(特集 グローバル時代のユニットロードシステム)/大西 忠	マテリアルフロー. 43(5) (通号 506) [2002.5]
117	物流と環境 NECロジスティクスにおける環境マネジメントへの取り組みと今後の展開/眞鍋 大輔	物流情報. 4(3) [2002.5]
118	赤血球の微小循環とレオロジー(特集 生物流体)/前田 信治	ながれ. 21(2) [2002.4]
119	我が町のみなどを再発見 環日本海時代の物流拠点を狙って—カニ王国「とっとり」を支える鳥取港	港湾. 79(4) (通号 892) [2002.4]
120	<上>カンボジアの一般概況と農業概況—一般概況(経済・社会・物流インフラ・投資環境)	海外農業開発. (通号 267) [2002.4]
121	都市内物流における環境負荷軽減のためのドイツ・ドレスデン市の取り組み—CarGo Tram Dresden/岐	広島商船高等専門学校紀要. (24)
122	循環型社会と家電リサイクルシステム(特集 最近の物流動向)/山本 明弘	包装技術. 40(3) (通号 467) [2002.3]
123	事例紹介 海上輸送活用事例 国内フェリーを利用した物流システムの構築—環境にやさしい物流/芦森 賢二	ロジスティクスシステム. 11(2) (通号 64) [2002.3・4]
124	物流と環境 佐川急便における環境マネジメントへの取り組みと今後の課題/別所 恭一	物流情報. 4(2) [2002.3]
125	MFレポート 低公害化・低コスト化の実用効果,モデル工場の稼働で実証中—環境に優しい物流現場の実現目指して—三菱重工のCNGフォークリフト	マテリアルフロー. 43(2) (通号 503) [2002.2]
126	環境負荷減らす物流システムを議論—国土交通省、都市圏の排ガス問題解決を目指す	厚生福祉. (4993) [2002.2.5]
127	物流と環境 東京都のディーゼル車対策/平林 宣広	物流情報. 4(1) [2002.1]
128	丸の内における交通・環境改善及び物流効率化のための実証実験/高橋 洋二;石田 宏之;水口 雅	都市計画論文集. (37) [2002]
129	ピックアップ最新物流データ—総合編/陸運編/海運編/航空編/マテハン編/環境・その他編(特集 データで見る日本の物流)	流通設計21. 2002年(2月)
130	静脈物流が果たす環境への貢献(6)物流業者に求められる環境管理とITの活用/服部 聡之	流通設計21. 2002年(4月)
131	静脈物流が果たす環境への貢献(7)リサイクル義務化が創出する「家庭系パソコン回収ビジネス」の可能性/林 孝昌	流通設計21. 2002年(5月)
132	安全輸送 コスト、環境、管理で選んだ物流事業者が作ったシステム(特集 運行動態管理の新潮流—物流事業者にとっての利点を探る)—(ケーススタディ/物流事業者“生の声” 導入企業7社を徹底検証)	流通設計21. 2002年(7月)
133	変化する欧州物流(最終回)迫られる物流事業者の環境対策への取り組み/森 隆行	流通設計21. 2002年(12月)
134	新総合物流施策大綱について(特集 ロジスティクス関連施設の立地問題—不動産学からの検討)/大	日本不動産学会誌. 15(4) (通号 59) [2002]
135	千葉県における物流ポテンシャル(特集 ロジスティクス関連施設の立地問題—不動産学からの検討)/石田 晶久	日本不動産学会誌. 15(4) (通号 59) [2002]
136	パリとロンドンの貨物車交通規制と物流センターの立地(特集 ロジスティクス関連施設の立地問題—不動産学からの検討)/今西 芳一;松田 由利	日本不動産学会誌. 15(4) (通号 59) [2002]
137	穀物の国内輸送における過大な物流に伴うエネルギー消費の推計—農産物供給のライフサイクル分析に関する基礎的検討/陳 杰;小林 久	環境情報科学論文集. 16 [2002]
138	海の物流—九州の海運事情(2)中部九州編 環黄海へ、新しい商流目指す熊本港、大分港	財界九州. 42(12) (通号 927) [2001.12]

雑誌・ジャーナル記事（下村副委員長 作成）

資料3-2  
2005.7.14

番号	タイトル	雑誌名
139	レンズ付きフィルムの循環生産と物流システムの構築―「写ルンです」の取り組みから（特集 21世紀・ロジスティクスの展望を拓く<ロジスティクス全国会議2001・強調月間>）―（第4部・循環型社会に向けてのロジスティクス）／千代倉 光宏	ロジスティクスシステム. 10(8) (通号 62) (増刊) [2001.12]
140	環境対応型リサイクル物流への取り組み―西濃運輸の実践事例（特集 21世紀・ロジスティクスの展望を拓く<ロジスティクス全国会議2001・強調月間>）―（第4部・循環型社会に向けてのロジスティクス）／大塚	ロジスティクスシステム. 10(8) (通号 62) (増刊) [2001.12]
141	住友電工ハイテックスの新製品 新ハンディターミナルで物流現場仕様を徹底追求―耐環境性能極める PL2000,PL3001S / 中村 徹	マテリアルフロー. 42(12) (通号 501) [2001.12]
142	物流パラダイムシフト時代の課題と戦略(44)急がれる循環型ロジスティクスの形成 / 津久井 英喜	流通ネットワーク. (通号 154) [2001.12]
143	東アジアにおける国際物流の環境変化と主要国の国際物流拠点化与件の比較 / 李 美永	東亜地域際経営研究. ([1]) [2001.12]
144	平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集	国土技術政策総合研究所資料. (11)
145	21世紀の道路交通―高度道路交通システム(ITS)がもたらすもの（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／山田 晴利	国土技術政策総合研究所資料. (11) [2001.12]
146	快適に憩える美しい東京湾をめざして（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／細川 恭	国土技術政策総合研究所資料. (11)
147	特別講演 人と環境の関わりについて―生態・環境・環世界（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／日高 敏隆	国土技術政策総合研究所資料. (11) [2001.12]
148	都市再生を支える技術開発―都市の居住機能の再生と持続（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／村山 浩和	国土技術政策総合研究所資料. (11) [2001.12]
149	国民生活を支える国際物流拠点の役割―世界を巡る海上コンテナ（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／高橋 宏直	国土技術政策総合研究所資料. (11) [2001.12]
150	ヒトと生き物を護る下水道の新しい役割（平成13年度国土技術政策総合研究所講演会講演集）／高橋	国土技術政策総合研究所資料. (11)
151	2000年度環境調和型物流システム標準化に関する調査(LEMS)（特集 ロジスティクスをめぐる4つの課題）／JILS総合研究所	ロジスティクスシステム. 10(7) (通号 61) [2001.11・12]
152	物流と環境 自動車の環境技術に関する技術動向 / 経済産業省特許庁	物流情報. 3(6) [2001.11]
153	物流における環境対策（環境特集）―（環境にやさしい生産活動）／宮崎 惇雄；茂木 憲一；中島 雅己	沖テクニカルレビュー. 68(4) (通号 188) [2001.10]
154	生産、エネルギー供給、物流の3つの臨海工業地帯の機能を生かしたエコタウン構想―川崎市(神奈川県)（特集 全国「エコタウン事業」のすべて―“環境”をキーワードに地域を活性化させるプランの数々）／	月刊廃棄物. 27(10) (通号 320) [2001.10]
155	第3部 循環型ロジスティクスと物流・包装システム 循環型社会形成に向けた工業包装の考え方と具体例 環境保全のキーワード“5R”の推進（特集 循環型ロジスティクスへの挑戦）／橋爪 文彦	マテリアルフロー. 42(10) (通号 499) [2001.10]
156	産地の冷蔵倉庫 水産物冷蔵倉庫 市場付属冷蔵倉庫―多品種・多温度対応型のNH3冷蔵倉庫設備（特集 冷蔵倉庫 最近の動向と実際例(前編)）／神戸 雅範	冷凍. 76(887) [2001.9]
157	物流と環境 京都議定書をめぐる最近の動向 / 関谷 毅史	物流情報. 3(5) [2001.9]
158	物流と環境 低公害車導入の状況と今後の課題 / 高橋 榮一	物流情報. 3(5) [2001.9]
159	循環型社会の構築に向けて―瀬戸内海エリアにおける静脈物流システム構築に関する調査報告書から / 中国経済産業局	産業機械. (611) [2001.8]
160	環状道路と物流 / 谷利 亨	高速道路と自動車. 44(8) [2001.8]
161	消費者物流と環境問題に関する一考察 / 嘉瀬 英昭	企業経営研究. 1(1) [2001.08]

番号	タイトル	雑誌名
162	循環型社会時代の到来にともない重要性が増す静脈物流 / 吉井 一郎	地方財務. (566) [2001.7]
163	物流と環境 物流環境大賞を受賞して—日本通運の環境対策の取り組み / 日本通運(株)	物流情報. 3(4) [2001.7]
164	特別企画 包装技術で志向・環境と人に優しい物流	マテリアルフロー. 42(6) (通号 495) [2001.6]
165	技術事例レポート 手軽でヒューマンなストレッチ包装を実現する簡易タイプ包装機—マワールでんラッパ—の特長と使い方 (特別企画 包装技術で志向・環境と人に優しい物流) / 磯野 恭行	マテリアルフロー. 42(6) (通号 495) [2001.6]
166	展示会情報“A-PACK 2001 OSAKA”—包装・物流・食品加工・環境対応への最新技術,アジアで拓こう21世紀 (特別企画 包装技術で志向・環境と人に優しい物流)	マテリアルフロー. 42(6) (通号 495) [2001.6]
167	DKR Special 物流がビジネスをこう変える—ITと環境で武装された現代物流はビジネスを革新し企業経営を一変する / 鈴木 邦成	マネジメントレポート. (通号 401) [2001.6]
168	物流業の環境と市場戦略(東京海上火災保険・物流ゼミナール) / 重田 靖男	物流logistics. 12(6) (通号 134) [2001.6]
169	Foodsyop 2001シンポジウム—循環物流の在り方を問う (環境ISOによる経営管理法と廃プラ問題から考える—環境問題は本当に農業とは無縁なのか?) / 徳井 厚夫; 福澤 厚; 杉森 一雄 他	農業経営者. 9(5) (通号 64) [2001.5]
170	物流と環境 ヤマト運輸の地球環境保護に対する取り組み / 平野 秀夫	物流情報. 3(3) [2001.5]
171	物流と環境 環境基本行動計画—社会との共生とトラック運送事業の持続的発展を目指して / 全日本トラック協会	
172	物流パラダイムシフト時代の課題と戦略(36)立ち遅れた「ロジスティクスと環境」の研究 / 津久井 英喜	流通ネットワークキング. (通号 146) [2001.4]
173	物流と環境 ISO14001環境マネジメントシステムと物流サービス産業 / 原田 皓三	物流情報. 3(2) [2001.3]
174	ECオンライン決済と物流の現状 (特集 10・5計画期のビジネス環境) / 李 石	MRI中国情報. 16(11) (通号 191) [2001.2]
175	青果物の環境保全型物流に関する研究 / 尾碇 亨	酪農学園大学紀要 人文・社会科学編. 25(2) (通号 44) [2001.2]
176	産地・生産者と連携する生鮮食品流通企業—野菜流通の変化の中での「連携」取引の深化 (特集 産地と連携する生鮮食品流通業—青果物流通を巡る環境変化と産地戦略) / 藤島 廣二	公庫月報. 48(11) (通号 603) [2001.2]
177	寄稿 21世紀の卸売会社が目指すもの—変化を恐れない組織を作る (特集 産地と連携する生鮮食品流通業—青果物流通を巡る環境変化と産地戦略) / 上田 宗勝	公庫月報. 48(11) (通号 603) [2001.2]
178	寄稿 実需サイドと供給サイドの連携戦略—青果物・需要創造時代のサプライチェーン構築へ向けて (特集 産地と連携する生鮮食品流通業—青果物流通を巡る環境変化と産地戦略) / 大澤 信一	公庫月報. 48(11) (通号 603) [2001.2]
179	寄稿 EDIが変える食品流通 (特集 産地と連携する生鮮食品流通業—青果物流通を巡る環境変化と産地戦略) / 白石 吉平	公庫月報. 48(11) (通号 603) [2001.2]
180	今月のロジスティクスIT 仮想環境での物流検証を可能にする三次元物流センター・エミュレータ構築ソフトウェア—RaLCシリーズの特徴と概要 / 勝川 孝	マテリアルフロー. 42(2) (通号 491) [2001.2]
181	物流と環境 公害防止条例改正に伴う都の自動車排出ガス対策の強化について / 福島 康夫	物流情報. 3(1) [2001.1]
182	循環型社会の到来とリサイクル対応型港湾物流システムの構築 (特集 静脈物流) / 水上 裕之; 久保 雅	日本包装学会誌. 10(2) [2001]
183	輸送包装の最適化と輸送環境 / 斎藤 勝彦; 長谷川 淳英	日本包装学会誌. 10(6) [2001]
184	バンコク首都圏における広域物流拠点整備による環境改善効果の推計 / 金子 雄一郎; 福田 敦	交通工学. 36(1) [2001]
185	循環のカギ握る廃棄物輸送システム (特別企画1 8兆円マーケットは誰の手にリサイクル物流) / 安藤	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(2)
186	循環型経済社会におけるロジスティクスの新たな道 (特別企画1 8兆円マーケットは誰の手にリサイクル物流) / 萩原 一平	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(2)

番号	タイトル	雑誌名
187	特集 物流から見た環境対策--トラック編	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
188	特別寄稿 トラックバッシングから環境のための効率運営へ (特集 物流から見た環境対策--トラック編) / 若狭 良治	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
189	特別寄稿 環境に優しい運送事業を目指して (特集 物流から見た環境対策--トラック編) / 高橋 榮一	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
190	脱ディーゼル車時代は来るのか! 低公害車開発、各社の戦略 (特集 物流から見た環境対策--トラック編)	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
191	いすゞ自動車 ディーゼルエンジンの可能性追求 完全クリーン化が第一の優先課題--CV商品企画室 担当付 島本文正氏 (特集 物流から見た環境対策--トラック編) -- (脱ディーゼル車時代は来るのか! 低公害車開発、各社の戦略) / 島本文正	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
192	ダイムラー・クライスラー日本 先進のディーゼル技術が武器 燃料電池車開発でも先行--商用車営業部 販売管理課 課長 三次哲氏 (特集 物流から見た環境対策--トラック編) -- (脱ディーゼル車時代は来るのか! 低公害車開発、各社の戦略) / 三次 哲	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
193	日産ディーゼル工業 “環境にやさしい”を企業理念に 大型CNG車の早期の普及目指す--商品プロジェクト室 主管 南清志氏 (特集 物流から見た環境対策--トラック編) -- (脱ディーゼル車時代は来るのか! 低公害車開発、各社の戦略) / 南 清志	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
194	日本ボルボ グローバルな企業展開の強み活かし ディーゼルの改善に全力尽くす--ボルボ・トラック事業部 製品開発部 ゼネラルマネージャー ピーター・ルンハーゲン氏 (特集 物流から見た環境対策--トラック編) -- (脱ディーゼル車時代は来るのか! 低公害車開発、各社の戦略) / ピーター ルンハーゲン	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
195	環境にやさしいトラック実現のために--天然ガス自動車の普及と課題 (特集 物流から見た環境対策--トラック編) / 茅 和子	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
196	静脈物流が果たす環境への貢献--本格化へ向けIT化で需要創造を図る (特集 物流から見た環境対策--トラック編) / 萩原 一平	ロジスティクス・ジャーナル. 2001(12)
197	野菜流通への環境保全型物流の導入と展開に関する研究--DBからリターナブル溶液へ / 尾碕 亨	流通. (14) [2001年版]
198	21世紀の倉庫業のあり方--物流効率化と循環型社会への対応 (倉庫業中央団体結成100周年記念特集号) -- (懸賞論文入選発表) / 伊藤 敏之	倉庫. (通号 117) [2001年度]
199	北九州港と環黄海圏の物流の現況--日本・中国・韓国の貿易動向の視点から / 李 貞和	港湾経済研究. (通号 40) [2001]
200	瀬戸内海エリア静脈物流システムの提言 (特集 エコタウン--物質循環をめざして) / 江口 知之	瀬戸内海. (28) [2001]

さ行

[自動車リサイクル法](#)

[食品リサイクル法](#)

[...](#)

} あいうえお順、ABC順にINDEXが並ぶ

クリック

## [自動車リサイクル法](#)

用語解説: [2-3行の基本的な定義](#)

廃車廃棄物の低減のため、自動車メーカーがフロン類、エアバッグ、シュレッダーダストの3品目をリサイクルし、その費用を自動車所有者が支払うという法律。2005年1月から施行。 [もっと詳しく](#)

クリック

詳細解説: [補足となる解説、とくに環境と物流との接点について詳述](#)

製品としての寿命を終えた自動車は、再使用可能な部品や有害物質を含むバッテリーやエアコン等を外した後、解体処理されて材質ごとにリサイクル、または最終処分される。1997年には通商産業省が「使用済み自動車リサイクル・イニシアティブ」を策定したが、業界の自主的取り組みのため実効性に疑問の声があり、廃車の不法投棄も跡を絶たない。そこで通産省は「自動車リサイクル法」制定の準備を進めている。法制化にあたっては、[拡大生産者責任\(EPR\)の明記](#)や、自動車解体業の実態把握がポイントとされている。

クリック

[拡大生産者責任\(EPR\)](#) の頁へリンク

## 共通基盤整備委員会の活動内容

※2004年4月時点資料より加筆修正

### 1. 活動方針

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則として全て公開する。

### 2. 活動内容

- 1) 物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備する。

⇒(1)「用語集」や「定義」という言葉が敷居の高い感じを与え、書き込みしづらい等の意見があるため、「用語集」を改め、用語の書き込み時点の背景や状況、ポイントを書込み者の視点でまとめていただけるように、「解説集」としてはどうか。  
※書き込みされたものが必ずしも正しい定義ではない、というコメントを加える。

(2)「解説集」の書き込みを活性化するため、『CGL NEWS』等で環境会議メンバーに書き込みの要請を行ってはどうか。

(3)各委員会で重要語句と思われるものを挙げてもらい、優先的に書き込みを行っていく。

委員会(オフ会)の場で確認された用語と合わせ、8月より随時ホームページ上でオープンしてはどうか。

- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。

- ・行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等  
⇒URLリンク集として作成済

- ・企業の環境報告書(ホームページ・印刷物)  
⇒JILSにて収集(閲覧コーナーにて参照可能)

- ・学界、団体、大学、自治体の研究  
⇒URLリンク集にて作成(予定)

- ・環境に関する書籍

- 3) 環境に関する国際動向(行政、自治体、企業の先進事例等)の調査を行う。

- ・環境対応の先進諸国や日本企業が進出している中国等についても、大使館や日本の出先機関等から情報を収集、整理した後、海外調査団等による調査を検討

⇒URLリンク集として作成中

- 4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。  
⇒研究会：開催済み（7回/2005年6月時点）  
⇒講習会（セミナー）：7月開催（予定）

### 3. アウトプット(成果)

- 1) 環境に関する用語集・・・・・・・・・・2004年4月より適宜公開  
⇒2005年3月プレオープン  
⇒各委員会の重要用語など、2005年8月よりオープン
- 3) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集・・・2004年7月より適宜公開  
⇒2005年2月オープン
- 4) 環境に関する国際動向の調査報告・・・・・・・・適宜実施  
※行政、自治体、企業の先進事例等  
⇒URLリンク集としてまとめる、2005年8月

以 上

## 第 1 回 グリーンロジスティクス講習会

### プログラム

#### 【開 会】

13:30～13:35

ご挨拶 津久井 英喜氏

ロジスティクス環境会議 共通基盤整備委員会 委員長

諏訪東京理科大学 経営情報学科 教授

#### 【講演 1】

13:35～14:25 (50 分)

ミニストップ(株) 相談役

陶山 勝 氏

「ミニストップの物流と環境の取り組み」  
～コスト削減・CO<sub>2</sub>削減・配送品質・安全管理～

#### 【休 憩】

14:25～14:35 (10 分)

#### 【講演 2】

14:35～15:25 (50 分)

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー対策課

宮下 正己 氏

「エネルギー使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律案について」

#### 【休 憩】

15:25～15:35 (10 分)

#### 【講演 3】

15:35～16:25 (50 分)

社団法人日本自動車工業会

安全・環境技術委員会 排出ガス燃費部会 ディーゼル分科会

野元 茂 氏

「トラック車両に関する環境対応の動向」  
～関係規制の概要と各トラックメーカーの対応～

#### 【閉会】

16:25～16:30

以上

## 環境関連法規 解説集

### 気候変動枠組条約締約国会議 (COP)

1980年代後半にさまざまな国際会議を通して気候変動について国際的に取り組んで行かなければならないという声が強くなってきた。特に1988年にカナダのトロントで開催された「変化する地球大気に関する国際会議」では大気関連の問題解決を目指す科学者や政府関係者などが多数、集まり、2005年までにCO<sub>2</sub>排出量を1988年レベルの20%削減などを旨とされた。さらに1992年6月にはブラジルのリオデジャネイロで国連環境開発会が開催され、気候変動に関する国際的な条約を採択しようという声が大きくなった。現在我が国を含む187か国及び欧州共同体が締結(平成15年12月16日現在)。採択、各国内での批准手続きなどを経て、1994年3月には気象変動枠組条約が発効した。だが条約には2000年以降のCO<sub>2</sub>排出量に関しては触れられておらず、先進国からは「追加的な義務を課す議定書が必要」という意見が出てきた。そうした流れを受けて開催されたのが気候変動枠組条約締結会議である。

### 気候変動枠組条約締結国会議・地球温暖化防止京都会議 (COP3)

1997年には日本の京都で第三回締約国会議が開催された。そして具体的な気候変動防止策について定めた「京都議定書」が採択されることとなった。京都議定書では(1)数量目標、すなわちCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出量をどのくらいに抑えるかということ(2)政策・措置、例えば炭素税の導入など環境対策などでの国際的共同歩調、(3)途上国の義務、急速に発達する中国やインドのCO<sub>2</sub>排出量をどのように制御するかなど、さらに(4)手続き規定についての議論が進められた。京都議定書の大きな意義としては2000年以降の先進国の温室効果ガスの排出量について数量目標を設定できたことなどがあげられる。反面、米国の離脱など多くの国際政治上の課題も浮き彫りにした。

### 京都議定書

上記COP3(第三回締約国会議)で採択された議定書で、先進国に対し、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスを1990年比で、2008年～2012年に一定数値を削減するように求めている。(日本6%、米国7%、EU8%)。その目標達成のために京都メカニズムなどを導入している。119か国および欧州共同体が締結。ただし2001年に米国のブッシュ政権が京都議定書からの離脱を表明している。

京都議定書で認められた排出量取引により、2005年には欧州統一の排出量取引市場が誕生するなど、年間売買代金約23兆円の市場が誕生するという予測もある。

### 環境基本法

環境に関する諸問題について政策の基本的な方向を示す法律で、生活に密着した問題から地球規模の問題にいたるまでのさまざまな環境問題への対応を意図して作られた。環境基本法の第一章では環境保全の理念として持続可能な社会の構築、地球規模での環境保全などが謳われている。第二章では公害防止計画の策定、国による環境影響評価の推進、環境負荷を低減させた製品の利活用の促進などについて基本的施策が定められている。第三章では環境問題への対応を踏まえた

## 環境関連法規 解説集

多角的な判断の可能な国、自治体レベルの審議会や合議制の機関について定められている。

### 地球温暖化対策推進法

平成10年10月9日公布。地方公共団体が自らの事務、事業に関連して温室効果ガスの排出抑制について実行計画を策定、その実施状況を公けにすることを義務としている。各地方自治体は地球温暖化に関連する啓蒙、啓発活動、対策などの推進を行い、そのためには「地球温暖化防止推進委員」や「地球温暖化防止活動推進センター」を設置することができるとしている。

### 循環型社会形成推進基本法

平成12年6月2日公布。同法では循環型社会を「廃棄物の抑制、再生資源の適正な利用の促進、循環利用しない廃棄物の適正処分、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を行う社会」とし、国、地方自治体、メーカー、消費者などはそれぞれ果たすべき責務を定めている。国、自治体の役割としてはリサイクルシステム、経路の整備、循環型ビジネス事業者の育成など、また消費者や事業者など、一般市民には廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用、あるいはそのシステムの整備、回収責任などを定めている。

### 資源有効利用促進法

平成3年4月26日公布。リサイクル法（再生資源の利用の促進に関する法律）が改正され、同法となり、リサイクル（再生）に加えてリデュース（発生抑制）、リユース（再利用）も促進することとなった。リデュースについては省資源、長寿化を推進するために修理体制の充実や包装のさらなる合理化を図ることとしている。またリユースについては部品を再利用しやすい設計、デザイン、部品の標準化などを促進することとしている。

### グリーン購入法

平成12年5月31日公布。循環型社会の形成を図るために公共部門が環境に配慮した製品を積極的に利用することを定めた法律。省庁、独立行政法人などの国、地方自治体の機関が特定調達品目において「環境に配慮した調達を進めるべき」と定めている。特定調達品目とは印刷、情報用紙、文房具、トイレットペーパーや公共事業開発などで使われる資材などである。

### 廃棄物処理法

昭和45年12月25日公布。廃棄物の排出抑制を推進し、同時にその適正な分別、保管、収集、運搬、処分などを行うことで生活環境、公衆衛生の向上を図る法律である。廃棄物基準に違反した処理が行われた場合や土壌汚染のために生活環境に悪影響が及ぼされる場合には、都道府県知事などが排出事業者などに浄化の措置命令を発することなどができる。

### 大気汚染防止法

昭和43年6月10日公布。大気環境を保全するために制定された。大気汚染に関して、国民の

## 環境関連法規 解説集

健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的としている。同法では、固定発生源（工場や事業場）から排出される大気汚染物質について、物質の種類ごと、排出施設の種類・規模ごとに排出基準などが定められている。大気汚染物質の排出者はこの基準を守ることが義務となる。ばい煙、粉じん、有害大気汚染物質、自動車排出ガスに対して届出義務、排出規制、許容限度の設置などの規制を定める。都道府県知事は大気汚染状況の監視、報告義務を負う。また大気汚染による健康被害などについては事業者に対して無過失損害賠償責任を設けている。

### 自動車排ガス規制法（NO<sub>x</sub>・PM法）

昭和45年12月25日公布。ディーゼル車から排出される粒子状物質（PM）についての発ガン性などにより健康被害が懸念されたことから平成13年6月にそれまでの自動車NO<sub>x</sub>法の改正法として（自動車NO<sub>x</sub>・PM法）が成立、翌年より施行されている。同法には、一定の自動車に関して、より窒素酸化物や粒子状物質の排出の少ない自動車を使うように「車種規制」が盛り込まれている。この規制によって、大都市圏で（首都圏、近畿圏、愛知・三重圏）使用できる自動車は制限されることになる。

なお、自動車排出ガスとは大気汚染防止法により「自動車の運行に伴い発生する一酸化炭素、炭化水素、鉛、その他の人の健康または生活環境にかかわる被害を生じる恐れがある物質と政令で定められたもの」となっている。

### 悪臭防止法

昭和46年6月1日公布。事業場や日常生活で発生する悪臭について防止対策を推進する法律。濃度規制、臭気指数などについて定められている。臭気指数については臭気判定士の資格制度を設けている。指定された規制地域について悪臭の原因となる物質について規制基準が設定され、適合しない場合には改善命令、改善勧告が出される。悪臭の原因物質の多様化に伴い、規制対象物質はこれまで状況に応じて追加されてきた。

### 騒音規制法

昭和43年6月10日公布。工場騒音、建設騒音、自動車騒音を規制する法律で、それぞれについて規制基準が設けられ、それに適合しない工場施設などについては改善命令や改善勧告が出されるとしている。

当初は工場騒音と建設騒音だけを規制するものであったが騒音問題の深刻化などに対応して改正が行われ、急速な都市の開発、拡大、旅客、貨物輸送、モータリゼーションの進行などによる道路公害の深刻化なども踏まえて自動車騒音も加えられた。

### 振動規制法

昭和51年6月10日公布。工場や事業場での事業活動、建設工事などで発生する振動について必要な規制を行う法律。道路交通振動に係る要請限度を定めるなどして、生活環境や国民の健

## 環境関連法規 解説集

康の保護を行うとしている。機械プレスや圧縮機など、著しい振動を発生する施設やくい打機など、建設工事として行われる作業のうち、著しい振動を発生する作業を規制する。振動の大きさ、作業時間帯、日数、曜日などの基準を定めている。

### 容器包装リサイクル法

平成7年6月16日公布。家庭、事業所などから出される一般廃棄物に使われるさまざまな容器、包装材に再商品化の義務を課した法律。当初はスチール缶、ガラス製容器、飲料用などのペットボトル、牛乳パックなどの飲料用紙パックが対象となっていたが、平成12年の改正で飲料用紙パック以外の紙製容器包装、プラスチック製容器包装も対象に追加された。同法では容器、包装について消費者の分別輩出、市町村などの費用負担による分別収集、事業者の費用負担などによる再商品化が規定されている。また容器包装の分別収集を容易にするために原材料の識別マーク表示を義務としている。

### 家電リサイクル法

平成10年6月5日公布。家庭から廃棄、排出されるテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンを対象に再商品化を目的に設けられた法律。消費者には家電製品を廃棄するまでに可能なかぎり長期間しようし、排出量を削減させる努力を求めている。小売業者には使用済み家電の引き取り、製造業者への引渡しを義務付け、メーカーにはその引き取りと再資源化を求めている。今後、さまざまな電子機器が順次、追加される方向である。

### 食品リサイクル法

平成12年6月7日公布。食品廃棄物の排出抑制、再資源化の促進を目的に施行。食品加工メーカー、流通、販売店などのほかに外食産業、ホテルなども対象事業者となる。また一般消費者にも食品廃棄物の発生抑制、再生利用などに努めることを求めている。さらには同法により食品関連事業者などによる再生利用事業計画の作成・認定制度や食品を循環資源として利活用するための肥料化などを行う事業者の登録制度も設けられている。

### 建設リサイクル法

平成12年5月31日公布。産業廃棄物の約四割を占めるといふ建設廃棄物を減らし、資源の有効活用を目的とした法律。新築、改装工事などを対象としてコンクリートなどの特定建設資材を指定し、分別解体、再資源化を義務付けている。また解体工事の発注者などに届出義務を課している。建設会社がリサイクルへの取り組みを本格化することを期待している。

### 自動車リサイクル法

平成14年7月12日公布。自動車と解体くずの不法投棄を防止することなどを目的としている。シュレッダーダスト、フロン類、エアバッグについて自動車メーカー、輸入業者に回収、再

## 環境関連法規 解説集

資源化を義務付けている。拡大生産者責任の原則のもとで自動車製造業者の役割、責任を明確化すると同時に長期使用、リサイクル使用可能な製品の生産を促進する。カーエアコンについてはフロン類の取り扱いを踏まえて一体的に扱っている。なお、ロン類についてはリサイクルを行わず、フロン類破壊事業者に委託して破壊することとしている。また自動車の設計、デザイン上の工夫などでリサイクルが容易な製品を開発することも促進している。

### <追加分の環境関連法規>

#### PCB 特別措置法

平成13年6月2日公布。PCB（ポリ塩化ビフェニル）の廃棄物の適正処理を推進するための特別措置法。有害物質による環境リスクを回避するために制定された。国民の健康を損なう恐れのあるPCNの廃棄物についての必要な規制措置を定めている。

#### ダイオキシン類対策特別措置法

平成11年7月16日公布。ダイオキシン類による土壌汚染についてダイオキシン類の耐容一日摂取量及び大気、水質、土壌に関する環境基準を定めている。また、排ガス、排水の規制、廃棄物焼却炉からの煤塵処理基準などの措置などの指針を示している。浄化の措置をとる必要があると判断される場合には都道府県知事はその地域を対象地域に指定して、浄化事業を実施することなどが定められている。

#### PRTR 法

平成11年7月13日に公布。さまざまな排出源から地球に排出されたり、廃棄物として処理したりするために移される有害物質の登録制度。国民には情報開示請求権が認められていて、事業者が知る情報・データを国は集計し、公表する義務を負う。米国の有害物質排出目録制度が先駆けとなっている。

#### 海洋汚染海上災害防止法

昭和45年12月25日公布。船舶及び海洋施設から海洋に油及び廃棄物を排出することを原則的に禁ずる法律。海洋汚染の深刻化に対応して、それまでの船舶の油による海水の汚濁の防止に関する法律を廃止して制定された。日本周辺海域での海洋汚染の発生確認件数のうち、約70%が油の漂流となっていることに対応した法律である。

#### 水質汚濁防止法

昭和45年12月25日公布。本来は公共用水域への排水規制を目的とした法律であったが、平成8年の法改正により、地下水も規制の対象とされた。地下水などにより健康被害が生じるか、またはその可能性がある場合、都道府県知事は汚染原因者に浄化措置を命ずることができるとし

## 環境関連法規 解説集

ている。また、水質汚濁などによって健康被害を発生させた場合には無過失責任を負うことになる。

### 環境影響評価法

平成9年6月13日公布。ある事業の実施が環境に及ぼす影響の中で公害の防止や自然環境の保全に関するものについて事前に調査、予測、評価を行い、その結果を公表するように定めた法律である。環境基本法の制定を受けて中央環境審議会などの審議を踏まえて公布された。

### 地球温暖化対策推進大綱

平成14年3月19日公布。環境と経済の両立、地球温暖化対策の国際的関係の確保を念頭に置き、京都議定書の約束を履行する具体的な対策の全体像を明確化するもので、エネルギー起源の二酸化炭素の1990年水準の維持などが掲げられている。同大綱に基づき、地球温暖化対策推進法が制定されている。

### 省エネルギー法

昭和54年6月22日公布。石油危機に対応したエネルギー需給対策として制定され、地球温暖化対策の一環として、平成10年と平成14年に改正されている。国内外における『エネルギーをめぐる経済的社会的環境の変化に応じた燃料資源の有効利用確保のため、エネルギー使用の合理化を推進する。なおここでいうエネルギーとは石油、可燃性天然ガス、石炭などの燃料とそれらを熱源とする電気のことを指す。自然エネルギーによって生成される電気、電力は除外される。』

### オゾン層保護法

昭和63年5月20日公布。オゾン層への影響を考慮し、5種類のフロンと3種類のハロンをはじめ主要なオゾン層破壊物質の生産を全廃するという法律で、1987年（昭和62年）に採択されたオゾン層破壊物質を提示しその削減を明示したモントリオール議定書に基いている。特定物質の製造、排出、使用、輸出などの規制と国の義務、そして罰則が定められている。

### フロン回収破壊法

平成13年6月22日公布。地球温暖化の防止を目的にフロン類の回収、破壊処理を義務付ける法律である。オゾン層保護法を踏まえて制定された。フロン類が冷媒として充填されている冷蔵冷凍機器・業務用エアコン（第一種特定製品）と使用済み自動車のエアコン（第二種特定製品）のフロン類回収の手続きや規制、罰則などが定められている。

### （主要参考文献）

『京都議定書は実現できるか』、石井孝明著、平凡社

『京都議定書の国際制度』、高村ゆかり、亀山康子編、信山社

『環境政策と環境法体系』、村松弓彦監修、社団法人産業環境管理協会

## 環境関連法規 解説集

『循環型社会の公共政策』、山谷修作編著、中央経済社

『リサイクルのことがわかる事典』、エコビジネスネットワーク編、日本実業出版社

## ロジスティクス環境会議

### 共通基盤整備委員会 第11回委員会 議事録

I. 日 時：2005年6月9日（木） 16：00～17：30

II. 場 所：(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：12名

#### IV. 議 案：

1. 共通基盤整備委員会の活動内容について
2. 環境関連法令の体系について
3. 用語集について
4. 活動成果（アウトプット）について
5. 第1回グリーンロジスティクス講習会について

#### V. 議 事

津久井委員長の司会進行のもと、以下のとおり議事が行われた。

##### 1. 共通基盤整備委員会の活動内容について

参考資料5に基づき、正副委員長ミーティングにおいて検討・確認された活動内容について事務局より報告がされた。環境関連法令の体系、用語集、アウトプットについては下記の意見交換が行われた。

##### 2. 環境関連法令の体系について

- ・ 事務局より提案された法令インデックス以外に追加すべき法令があるか。
- ・ →特に追加する法令はなく、現在のインデックスを基にバージョン1として、8月にホームページへ掲載する。枠組みや内容等の修正・追加がある場合は、随時バージョンをあげていく。
- ・ 委員各位に作成していただいた法令要約は体裁をどのようにするか。  
→概要が分かる程度に事務局にて体裁を整える。
- ・ インデックスに掲載されている法令に対する解説が抜けているものがある。  
→鈴木委員に作成いただく。
- ・ 要約されていない4法令がある。  
→津久井委員長と鈴木委員に作成いただく。

##### 3. 用語集について

鈴木委員より用語集への書き込み、閲覧のデモンストレーションが行われた。

- ・ 一般的に環境用語を検索できるサイトがあるが、新たに用語集を掲載する意義は何か。  
→ロジスティクスの視点から取り上げた環境に関する用語を集約する。
- ・ 用語集、定義という言葉が、書き込みをすることを躊躇させる。  
→ロジスティクス解説集とする。
- ・ 現在248語が掲載されているが、重複しているもの、派生語などがある。

→再度中身を精査する。

- ・ ホームページ上にてオープンにする用語と時期  
→各委員会より重要用語を挙げてもらい、優先的に書き込みを行う。共通基盤整備委員会で確認された用語とあわせ8月にホームページで公開する。
- ・ 入力に関する指針があると書き込みがしやすい。  
→書き込みのルールを作成する。
- ・ 書き込み時点の背景や状況を書き込むためのオープンリソースとして、多くの人に書き込んでもらいたい。  
→改善点などを挙げてもらい、書き込みやすいシステムに改善する。

#### 4. 活動成果（アウトプット）

環境報告書の物流分野の取り組み部分をまとめ、報告書にするという提案があり、次回委員会にて10社程度の環境報告書について意見交換を行う。

#### 5. 第1回グリーンロジスティクス講習会について

- ・ 現在の参加申込み状況は、定員60名を超える参加応募がきている。
- ・ 講師選定中の講演3に関しては、成沢委員のご協力をいただき、三菱自動車様よりご講演をいただく予定。決まり次第、事務局よりメールにてご案内をする。

#### 6. 次回委員会について

第12回共通基盤整備委員会は下記のとおり開催する。

日 時：7月14日（木）16：00～17：30

会 場：浜松町東京會館「ゴールドルーム」

なお、第8回研究会はキリンビール(株)藤原委員にご講演いただく。

以上の議事をもって、閉会となった。

共通基盤整備委員会 第7回研究会

日 時：2005年6月9日（木）16:45～17:45

ご講演者：文化女子大学 講師 鈴木 邦成 氏

テ ー マ：中国の産業構造の変化とグリーン物流

【参加者のご感想】

- ・ あたかも現地に行って俯瞰したかのように中国の実情を理解でき、大変参考になりました。
- ・ 大変興味深い、中国の産業構造の変化とグリーン物流についてのご講演が聞けて参加してよかったです。
- ・ 中国は、先生のお話にもありましたが、急速な発展と裏腹に旧態依然としている部分があり、CO<sub>2</sub>や、廃棄物についても深刻な問題が山積していることを新たに認識できました。
- ・ アジアで何ができるか、という動きが必要になるでしょう。
- ・ 色々と調査された結果のデータを駆使しし分かりやすく、また先生の一言一言に納得させられた講演でした。感謝しております。
- ・ いろいろな文献等で、中国の公害のすさまじさは知ってはいましたが、先生から具体的な数字をもって解説していただき、改めて中国による環境破壊の現実を認識させられ、自身にとっては大変ショッキングなご講演でした。このままでは、いつまで地球が耐えられるのかが心配です。
- ・ 「自分自身がどのように環境問題に取り組んでいくべきか」の宿題を突きつけられたような鋭いご講演でした。
- ・ 通常では知りえない中国の環境問題・環境事情が勉強できました。ありがとうございます。国際的な観点ですと、どうしても二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出問題に焦点が行ってしまうのですが（何しろ世界第2位）、それ以外、いやそれ以前の問題として二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）問題が深刻であるということを知り経済と環境のバランスが取れていない国だなと感じました。広大な国土の維持、膨大な人口の保護、社会主義国→資本主義国への経済体制の転換が急務であること、かつ環境問題もいずれは世界水準に追いつかなければならないe t c、中国がやらなければいけないことがたくさんあります。我が国もいろいろと協力せねばいけないのではと思います。
- ・ 中国の現状と将来について、幅広く知ることができました。
- ・ 中国のエネルギー・環境の危機的な状況が良く分りました。
- ・ 崩壊と進化の危ういバランスの上であり、目が離せない。
- ・ 中国の経済構造の2面性（特区・市内）を認識したうえでのビジネス戦略を検討・計画する必要がある。→特性が理解できた。
- ・ 中古品（使用済）、中古商品（使用済）が中国での購入規制強化が今後の日本のリサイクルビジネスにインパクトを与えることが予想される。→中国の動向を見守りたい。

参考資料 4  
2005. 7. 14

以上